

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m付近の正渦度極大域に対応した中国東北区の前線を伴う低気圧が東南東進。前線は華北から日本海へのびている。前線の影響で北日本では強い雨を解析。
- ② オホーツク海の高気圧が、ゆっくり西南西に移動し、沖縄付近の高気圧が、ほとんど停滞。
- ③ 500hPa 5820m以下で-6℃以下の寒気を伴う上空寒冷低気圧が東シナ海から華中付近を北西進。南西諸島では、強い雨を解析し周辺では発雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、8月1日にかけて次第にのびて、日本海で前線上に低気圧が顕在化。この低気圧は、2日にかけて北日本を通り、日本の東へ進む。1項②の沖縄付近の高気圧は、2日にかけて本州へ張り出し、500hPa 5880m以上の上空の高気圧にも覆われ、東～西日本を中心に広く晴れて昇温し、酷暑日に近い所や猛暑日となる所が広がる。熱中症による人の健康に係る被害が生ずるおそれがある。前線や低気圧に向かう下層暖湿気や地上の昇温、上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴う激しい雨の降る所がある。東北地方では1日は、土砂災害に厳重に警戒し、北～東日本では1日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。北～東日本と南西諸島では1日は、落雷、突風、降ひょう、短時間強雨に注意。また、竜巻などの激しい突風に留意。これまでに降った雨により地盤の緩んでいる所があり、少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まる可能性がある。
- ② 2日は、2項①の日本の東へ進む低気圧と前線が東北東進し、次第に日本から遠ざかる。2項①の沖縄付近の高気圧は次第に不明瞭化。1項②のオホーツク海の高気圧は千島近海へ移動し、北～東日本へ張り出し、高気圧の縁辺を回る湿った東寄りの風が入りやすくなる。前線に向かう下層暖湿気、地上の昇温の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。北～東日本では2日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、北～西日本では2日は、落雷、突風、降ひょう、短時間強雨に注意。
- ③ 猛烈な勢力の台風第13号が、2日までに南鳥島近海へ進み、台風を波源とするうねりの影響で、波が高くなり、大しけになる所がある。小笠原諸島では2日は、うねりを伴った高波に注意し、3日は警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量（06時からの24時間）：東北120、北陸100mm。

② 波浪（明日まで）：高い所（3m以上）はない。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。